薬袋奈美子　研究室

専門領域：住環境計画・住教育

緑の変遷

多摩区登戸周辺

航空写真を見て、
緑の変遷を調べました。
これは 2006 年の川崎市
多摩区登戸周辺の様子です。多摩川と生田緑地に囲まれた農地の比較的残る場所でしたが、やはり宅地化・駐車場化は避けられないようです。（徳丸悠里）

緑の表出

大学のすぐ近くに立地する住宅密集地域、豊島区雑司ヶ谷。そこで植木鉢を家の前に並べるといった「緑の表出」を調べたところ、広い空間があるよりも車の通らないような狭い道の方が積極的に表出がされることがわかりました。緑の表出という点で見れば密集地域の狭い路地は、今後も残していきたいまちの生活空間です。（皆川智子）

長野県飯田市の裏界線（りかいせん）は、昭和 22 年の飯田大火後の復興計画の際に、街区の背割り線に各世帯土地を出し合い、連続させた幅員約 2mの計画的な路地です。防災・避難を目的として作られましたが、約 60 年経過した現在は、避難経路、通り抜けのほか、裏界線上で人々が立ち話をしたり、子供が遊ぶなど、安心できる生活の場として人々に親しまれていることがわかりました。（小森谷奈月）

長野県飯田市 裏界線

福井県池田町

農家のやる気を引き出す取り組みが、農家の方を元気にしました。農家の方へのヒアリングばかりでなく、美味しいものを沢山食べさせてもらい、日本の農村を“体感”してきました。
写真は「ほおずきトマト拾い」の様子。ゼミ合宿を兼ねた調査の一コマです。美味しくって笑顔がはじけます。

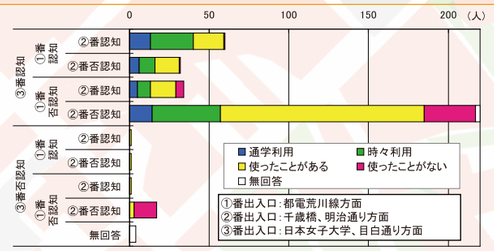
住む人が自分らしさを出せる住環境づくりを目指して

自然遊び

「砧・多摩川あそび村」は多摩川河川敷をフィールドに、子どもたちが自然遊びを体験できる活動を行っている団体です。世田谷区内の住宅地に隣接する河川敷は、見守ってくれるスタッフがいることで、子供達が自由に、ダイナミックに遊べる場所になっています。私もお手伝いしながらその良さを調査しました。（佐原香奈）

市民のパワー

コミュニティガーデン活動を行う団体に対し、活動参加した経験を活かして調査をしました。活動実態・団体同士の地域内連携について把握するとともに、まちづくり活動を積極的に行う市民のパワーに触れることが出来ました。（加藤絢子）
（写真：今宿コミュニティガーデン友の会提供）



雑司が谷駅利用実態と出入口認知

副都心線開通前後での通学利用変化

	1年時	現在
JR 目白駅	77.8%	65.7%
M 副都心線雑司が谷駅	0.0%	10.5%
M 有楽町線護国寺駅	10.8%	11.6%
都電荒川線鬼子母神駅	0.3%	0.0%
使ってない	7.6%	8.6%
その他	1.6%	1.6%
無回答	1.9%	1.9%

2009 年度日本女子大学目白キャンパスに通学する3年生以上 370 人に対するアンケート調査より

副都心線 雑司ヶ谷駅

通学利用駅について 1 年時と現在とで比較したところ、2008 年の開通後 10.5% の学生が副都心線（雑司ヶ谷駅）を利用するようになったことがわかりました。これは護国寺駅の割合に匹敵します。ただ雑司が谷の静かな町中を歩いて大学へ通える①番出口を知る人が少なくて残念。近道ですよ。（倉西貴子）

研究室では、住教育方法の提案も行っています。写真は、フィンランドの学校の様子。学力世界一と呼ばれる国では、建物に関連する事項が様々な教科の中で活用されていました。人々の住まいへの関心の高さとともに、身近な住空間を教育に使うことの有意性を改めて感じます。

住教育